

各関係機関長 殿
病害虫防除員 殿

徳島県立農林水産総合技術支援センター
病害虫防除所長
(公印省略)

平成30年度農作物病害虫発生予察情報について

平成30年度農作物病害虫発生予報第8号を発表したので送付します。

平成30年度農作物病害虫発生予報第8号

平成30年8月31日
徳 島 県

I. 普通作物

普通期イネ

穂いもち

1) 予報内容

発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 8月6半旬の巡回調査では、発生圃場率が8.7%、発病穂率が0.1%と、平年(25.8%、0.5%)に比べてやや低い。
- (2) 8月3半旬に県西部(美馬市、東みよし町、三好市の8圃場)で行った葉いもち発病調査では、発生圃場率が25.0%、発病度が0.8と、前年(45.5%、11.8)に比べて低い。
- (3) 高松地方気象台が8月30日に発表した1か月予報では、気温はほぼ平年並で、降水量は平年並か多く、日照時間は平年並か少なく、平年に比べ晴れの日が少ないと予測されており、やや発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 出穂後曇雨天が続いた場合は、穂揃期にも防除を行う。

紋枯病

1) 予報内容

発生量 平年並(前年よりやや多い)で、発生程度は「少～中」

2) 予報の根拠

- (1) 8月6半旬の巡回調査では、発生圃場率が69.6%、発病度が6.3と、平年(62.5%、5.9)並の発生である。
- (2) 高松地方気象台が8月30日に発表した1か月予報では、気温はほぼ平年並で、降水量は平年並か多く、日照時間は平年並か少なく、平年に比べ晴れの日が少ないと予測されており、やや発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 病斑が上位葉鞘に進展してくる穂ばらみ期～出穂期が薬剤防除の適期である。薬剤が病患部の葉鞘に十分付着するよう、株元をねらって散布する。
- (2) 発生状況は圃場によって異なるので、圃場を見回り、病斑が第3葉鞘まで達している場合は、早急に防除を実施する。
- (3) 防除は県植物防疫指針に基づき、使用基準をよく確認(収穫14日前までの剤が多い)し、収穫時期を勘案の上、適切な剤を使用する。

トビイロウンカ

1) 予報内容

発生量 平年よりやや少なく(前年並), 発生程度は「やや少ない」

2) 予報の根拠

- (1) 8月6半旬の巡回調査では, 発生を認めていない(平年同時期は, 発生圃場率が9.7%, 株当たり寄生虫数が0.1頭)。
- (2) 石井町の子察灯においても, 誘殺を認めていない。
- (3) 高松地方気象台が8月30日に発表した1か月予報では, 気温はほぼ平年並で, 降水量は平年並か多く, 日照時間は平年並か少なく, 平年に比べ晴れの日が少ないと予測されており, 発生には中間的な気象条件である。

コブノメイガ

1) 予報内容

発生量 平年並(前年よりやや少ない)で, 発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 8月6半旬の巡回調査では, 発生圃場率が4.3%, 上位2葉の被害葉率が0.1%と, 平年(21.5%, 0.9%)に比べて低い。
- (2) 高松地方気象台が8月30日に発表した1か月予報では, 気温はほぼ平年並で, 降水量は平年並か多く, 日照時間は平年並か少なく, 平年に比べ晴れの日が少ないと予測されており, 発生には中間的な気象条件である。

II. 果樹

カキ

うどんこ病

1) 予報内容

発生量 平年並(前年並)で, 発生程度は「中」

2) 予報の根拠

- (1) 8月6半旬の巡回調査では, 発生圃場率が100%と, 平年(76.7%)に比べてやや高いが, 発病葉率は13.2%と, 平年(10.8%)並の発生である。
- (2) 高松地方気象台が8月30日に発表した1か月予報では, 気温はほぼ平年並で, 降水量は平年並か多く, 日照時間は平年並か少なく, 平年に比べ晴れの日が少ないと予測されており, やや発生抑制的な気象条件である。

炭そ病

1) 予報内容

発生量 平年よりやや少なく(前年並), 発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 8月6半旬の巡回調査では, 発生を認めていない(平年同時期は, 発生圃場率が5.7%, 発病果率が0.1%)。
- (2) 7月6半旬に行った新梢における発病調査でも, 発生を認めていない(平年同時期は, 発生圃場率が2.0%, 新梢発病率が0.02%)。
- (3) 高松地方気象台が8月30日に発表した1か月予報では, 気温はほぼ平年並で, 降水量は平年並か多く, 日照時間は平年並か少なく, 平年に比べ晴れの日が少ないと予測されており, やや発生助長的な気象条件である。

果樹共通

果樹カメムシ類(ツヤアオカメムシ, チャバネアオカメムシ等) (8月17日付けで注意報発令中)

1) 予報内容

発生量 平年より多く(前年並), 発生程度は「多」

2) 予報の根拠

- (1) 7月第6半旬~8月第2半旬における勝浦町及び上板町での子察灯調査で, ツヤアオカメムシおよびチャバネアオカメムシが平年に比べて約1.8~4.5倍誘殺されたことから, 8月17日付けで注意報を発令した。その後も, 勝浦町及び上板町における両種の誘殺数は平年に比べて多い(表1, 図1)。

表1 [勝浦町および上板町における各カメムシの誘殺数]

[ツヤアオカメムシの誘殺数]

月・半旬	勝浦町					上板町				
	2018年	2017年	2016年	2015年	平年	2018年	2017年	2016年	2015年	平年
8・2	725	346	66	20	157	57	15	1	7	7
8・3	2400	494	101	8	183	89	68	8	5	13
8・4	446	564	37	18	155	57	60	8	4	13
8・5	241	359	107	10	109	55	84	10	5	13
8・6	-	85	93	9	89	-	77	64	0	25
9・1	-	11	308	7	66	-	63	22	2	16

[チャバネアオカメムシの誘殺数]

月・半旬	勝浦町					上板町				
	2018年	2017年	2016年	2015年	平年	2018年	2017年	2016年	2015年	平年
8・2	277	169	33	87	113	23	20	3	30	16
8・3	297	149	54	59	111	59	72	10	15	29
8・4	466	255	73	40	156	89	79	6	11	24
8・5	672	388	143	81	147	150	105	19	14	27
8・6	-	194	152	37	177	-	127	55	8	42
9・1	-	23	180	21	83	-	174	48	6	36

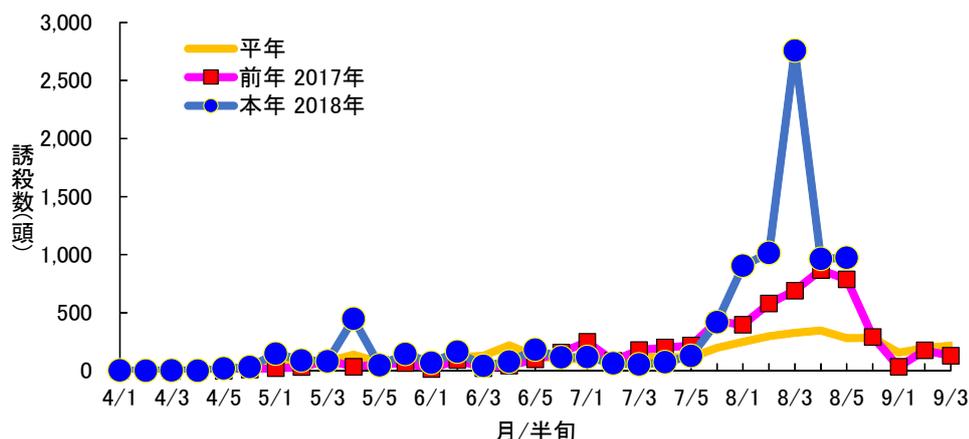


図1 予察灯による果樹カメムシ類(ツヤアオ+チャバネ+クサギ)の誘殺数(勝浦町)

(3) 高松地方気象台が8月30日に発表した1か月予報では、気温はほぼ平年並で、降水量は平年並か多く、日照時間は平年並か少なく、平年に比べ晴れの日が少ないと予測されており、発生にはやや助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 果樹園周辺の雑木林から成虫が飛来するので、園内を巡回し飛来に注意するとともに、飛来を認めたら早急に防除を行う。
- (2) 夜行性の虫なので、薬剤の散布は夕方か早朝に実施すると効果が高い。
- (3) 移動性が大きいので、広域一斉防除により防除効果の向上に努める。

Ⅲ. 野菜

夏秋ナス

うどんこ病

1) 予報内容

発生量 平年並～やや少なく(前年よりやや少ない)、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 8月6半旬の巡回調査では、発生圃場率が44.4%と、平年(59.3%)並の発生であるが、発病葉率は1.6%と、平年(8.0%)に比べて低い。
- (2) 高松地方気象台が8月30日に発表した1か月予報では、気温はほぼ平年並で、降水量は平年並か多く、

日照時間は平年並か少なく、平年に比べ晴れの日が少ないと予測されており、やや発生抑制的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

(1) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。

アザミウマ類

1) 予報内容

発生量 平年よりやや少なく(前年並), 発生程度は「少」

2) 予報の根拠

(1) 8月6半旬の巡回調査では、発生圃場率は44.4%と、平年(60.4%)に比べてやや低く、寄生葉率は0.9%と、平年(3.1%)に比べて低い。

(2) 高松地方気象台が8月30日に発表した1か月予報では、気温はほぼ平年並で、降水量は平年並か多く、日照時間は平年並か少なく、平年に比べ晴れの日が少ないと予測されており、発生には中間的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

(1) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。

ハダニ類

1) 予報内容

発生量 平年よりやや多く(前年並), 発生程度は「少」

2) 予報の根拠

(1) 8月6半旬の巡回調査では、発生圃場率が44.4%と、平年(40.8%)並の発生であるが、寄生葉率は5.2%と、平年(1.6%)に比べて高い。

(3) 高松地方気象台が8月30日に発表した1か月予報では、気温はほぼ平年並で、降水量は平年並か多く、日照時間は平年並か少なく、平年に比べ晴れの日が少ないと予測されており、発生には中間的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

(1) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。ハダニ類はほとんど葉裏に寄生しているので、防除の際には、葉裏に十分な量の薬液がかかるよう丁寧に散布する。

(2) 同一系統薬剤の連用は薬剤抵抗性獲得の恐れがあるので避ける。

秋冬ネギ

シロイチモジヨトウ (8月31日付けで注意報発令中)

1) 予報内容

発生量 平年より多く(前年並), 発生程度は「多」

2) 予報の根拠

(1) 8月6半旬の巡回調査では、発生圃場率が77.8%と、平年(36.9%)に比べて高く、50株当たり虫数が5.3頭と、平年(2.3頭)に比べてやや多い。

(2) フェロモントラップ定点調査(野菜圃場6地点)において、8月第2半旬より誘殺数が増加し、8月第2半旬～8月第5半旬の誘殺数が5,149頭と平年(1,931頭)の約2.7倍となった。

(3) 高松地方気象台が8月30日に発表した1か月予報では、気温はほぼ平年並で、降水量は平年並か多く、日照時間は平年並か少なく、平年に比べ晴れの日が少ないと予測されており、発生には中間的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

(1) 次世代の発生を抑制するためにも、被害を受けた植物残渣は圃場に放置せず、確実に処分する。

(2) 幼虫の齢期が進んだり、食害して葉の内部に潜むようになると、薬剤による防除効果が著しく低下するので、早期発見に努め、若齢幼虫期に防除を行う。

(3) ネギの集団栽培地帯においては、フェロモン剤による防除が効果的であるので、適切に使用する。

(4) フェロモン剤による交信攪乱効果は設置後3か月程度で低下してくるので、早めに交換する。

ネギアザミウマ

1) 予報内容

発生量 平年よりやや少なく(前年より少ない), 発生程度は「少～中」

2) 予報の根拠

- (1) 8月6半旬の巡回調査では、発生圃場率が11.1%、被害度が0.1と平年(38.4%, 1.5)に比べてやや低い。
 - (2) 高松地方気象台が8月30日に発表した1か月予報では、気温はほぼ平年並で、降水量は平年並か多く、日照時間は平年並か少なく、平年に比べ晴れの日が少ないと予測されており、発生には中間的な気象条件である。
- 3) 防除上注意すべき事項
- (1) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。

ネギハモグリバエ

- 1) 予報内容
発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「中」
- 2) 予報の根拠
 - (1) 8月6半旬の巡回調査では、発生圃場率は100%と、平年(91.9%)並の発生であるが、被害度は10.4と、平年(16.5)に比べてやや低い。
 - (2) 高松地方気象台が8月30日に発表した1か月予報では、気温はほぼ平年並で、降水量は平年並か多く、日照時間は平年並か少なく、平年に比べ晴れの日が少ないと予測されており、発生には中間的な気象条件である。
- 3) 防除上注意すべき事項
 - (1) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。
 - (2) 被害葉は発生源となるので、絶対に圃場周辺に野積み・放置せず、速やかに処分する。

野菜共通

ハスモンヨトウ

- 1) 予報内容
発生量 平年並(前年やや少ない)で、発生程度は「中」
- 2) 予報の根拠
 - (1) 8月第1半旬～8月第5半旬のフェロモントラップへの誘殺虫数(調査6圃場の平均)は、629頭と平年(710頭)並の発生である(図3)。
 - (2) 高松地方気象台が8月30日に発表した1か月予報では、気温はほぼ平年並で、降水量は平年並か多く、日照時間は平年並か少なく、平年に比べ晴れの日が少ないと予測されており、発生には中間的な気象条件である。
- 3) 防除上注意すべき事項
 - (1) 幼虫の齢期が進むと薬剤の効果が著しく低下するので、早期発見に努め、若齢幼虫期に防除を行う。

シロイチモジヨトウ (8月31日付けで注意報発令中)

- 1) 予報内容
発生量 平年より多く(前年並)、発生程度は「多」
- 2) 予報の根拠
 - (1) フェロモントラップ定点調査(野菜圃場6地点)において、8月第2半旬より誘殺数が増加し、8月第2半旬～8月第5半旬の誘殺数が5,149頭と平年(1,931頭)の約2.7倍となった。
 - (2) 高松地方気象台が8月30日に発表した1か月予報では、気温はほぼ平年並で、降水量は平年並か多く、日照時間は平年並か少なく、平年に比べ晴れの日が少ないと予測されており、発生には中間的な気象条件である。
- 3) 防除上注意すべき事項
 - (1) 幼虫の齢期が進むと薬剤の効果が著しく低下するので、早期発見に努め、若齢幼虫期に防除を行う。

表2 [各ヨトウガのフェロモントラップへの誘殺虫数] (調査圃場の平均値)

月・半旬	ハスモンヨトウ					シロイチモジヨトウ				
	2018年	2017年	2016年	2015年	平年	2018年	2017年	2016年	2015年	平年
8・1	41	92	115	138	91	43	190	24	11	42
8・2	78	178	175	108	113	121	182	62	7	40
8・3	99	129	125	112	115	218	223	40	25	44
8・4	225	120	172	100	161	255	449	42	56	70
8・5	186	295	293	187	229	351	355	174	57	127
8・6	-	521	705	232	347	-	270	561	93	163

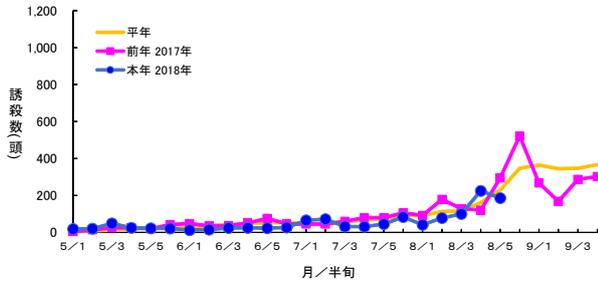


図2 ハスモンヨトウフェロモントラップ誘殺数推移(野菜圃場)
*徳島市,石井町,阿波市,吉野川市の6地点平均

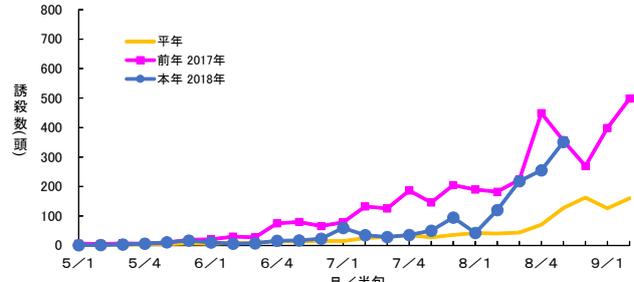


図3 シロイチモジヨトウ フェロモントラップ誘殺数推移(野菜圃場)
*徳島市,石井町,阿波市,吉野川市の6地点平均

オオタバコガ (7月3日付けで注意報発令中)

1) 予報内容

発生量 平年よりやや多く(前年並), 発生程度は「中」

2) 予報の根拠

- (1) フェロモントラップの定点(7地点)調査において, 8月第1半旬~第3半旬は誘殺数が平年並に推移したが, 第4半旬以降, 平年より多く推移している(図4)。
- (3) 高松地方気象台が8月30日に発表した1か月予報では, 気温はほぼ平年並で, 降水量は平年並か多く, 日照時間は平年並か少なく, 平年に比べ晴れの日が少ないと予測されており, 発生には中間的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 幼虫が果実等に食入すると薬剤の効果が著しく低下するので, 使用基準に基づき定期的な薬剤防除を行う。

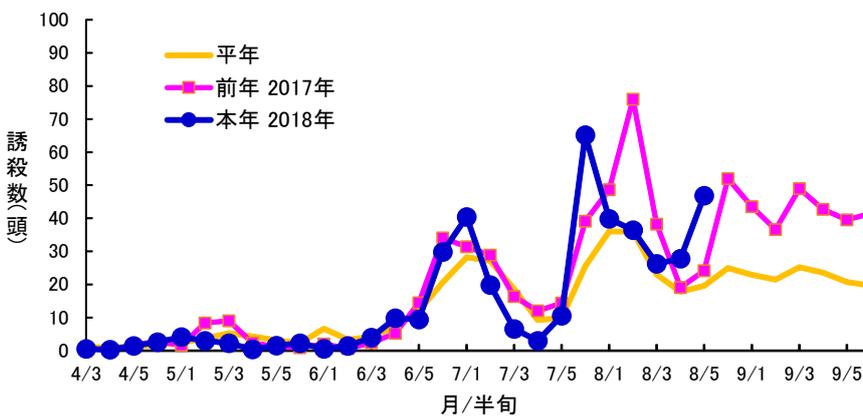


図4 オオタバコガフェロモントラップ誘殺数推移
※阿波市,三好市,東みよし町,石井町の7地点平均

IV. その他

- 1) 防除にあたっては, 圃場をよく観察し, 適期を逃さないようにする。
- 2) 薬剤の使用にあたっては必ず使用基準を遵守し, 周辺作物等へ飛散しないように注意する。

発生量の表示

発生程度: 甚>多>中>少>無

発生量: 多い>やや多い>並>やや少ない>少ない

徳島県立農林水産総合技術支援センター病害虫防除所
URL : <https://www.pref.tokushima.lg.jp/tafftsc/t-boujoso/>

○ 病害虫の発生予察情報, 発生状況, 防除法等をお知らせしています。